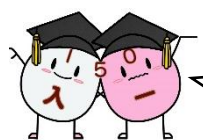


研究主題

児童を中心としたカリキュラム・マネジメント
～自由進度学習の可能性を探る～

マイプラン・タイム（2教科2単元）

第2学年 国語科・算数科指導案



本校では単元内自由進度学習を
『マイプラン・タイム』と呼んで
いるよ。

実施期間：令和6年9月25日～10月10日

対 象：第2学年 86名

場 所：第2学年教室・教室前廊下・オープンスペース

授 業 者：釣谷咲紀 風当英文 佐々木雅仁

1 単元名

国語科「書いたら、見直そう」「かん字のひろば」（こくご 二上 たんぽぽ 光村図書）

算数科「さんかくやしかくの形をしらべよう」（さんすう 二上 新しい算数 東京書籍）

2 単元の目標

国語科

進んで学習シートを選び、学習課題に沿って学習することに関心をもち、長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができたり、1学年に配当される漢字を書き、分や文章の中で使うことができるとともに、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする態度を養う。

算数科

平面活動に進んで関わり、図形についての感覚を豊かにしながら、三角形、四角形などの構成要素を捉え、それらの意味や性質を理解し、図形を構成する要素に着目して捉える力を養うとともに、それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
国語科	長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。	進んで学習シートを選び、学習課題に沿って、間違いを正したり、第1学年に配当されている漢字を使って最後まで文章を書いたりしようとしている。
算数科	三角形や四角形、直角、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解するとともに、紙	辺や頂点など図形を構成する要素に着目し、三角形や四角形、長方形や正方形などの特徴	進んで学習シートを選び、学習課題に取り組む過程で、身の回りにあるものの形を図形として捉

	を折って直角を作ったり、長方形や正方形などを作図したりすることができる。	を見だし、説明している。	え、数学的に表現・処理したことを振り返り、数学的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。
--	--------------------------------------	--------------	--

4 指導観

(1) 単元観

国語科 本単元で扱う内容は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）において、以下のように位置付けられている。

国語〔第 1 学年及び第 2 学年〕 2 内容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。

エ 第 1 学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第 1 学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第 2 学年においては、学年別漢字配当表の第 2 学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第 1 学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第 2 学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕

B 書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。

「書いたら、見直そう」では、児童が自らの文章を再確認し、適切な修正を行う力を育てることが主たる目的である。1 年生の学習では、文章を書く際の基本的な言葉の使い方や簡単な表現に取り組んできた。また、学年が上がるにつれて、3 年生以降ではより長い文章や段落構成について学ぶこととなる。2 年生の学習は、1 年生での基本を踏まえ、3 年生での発展的な学びへとつなげる重要なステップと考えている。

本単元の具体的な活動として、児童はまずプリントでの個別学習を行いながら知識、技能の定着を図る。その後、「かん字のひろば②」を踏まえ、既習漢字を使って、自分の考えや経験を文章に書き出し、書いた文章を自分で読み返したり、言葉の使い方や文の流れに注目したりしながら見直しを行う。この過程で、「誤字脱字」「文の意味の通りやすさ」「適切な表記・助詞・句読点等の選択」など、文章の質を高めるための要素に気付くことが求められる。また、見直しの活動を通じて、文章を他者に伝える際の効果的な表現方法についても理解を深めるようにする。

算数科 本単元で扱う内容は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）において、以下のように位置付けられている。

算数〔第 2 学年〕 2 内容

B 図形

- (1) 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 三角形、四角形について知ること。
 - (イ) 正方形、長方形、直角三角形について知ること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、身の回りのものの形を図形として捉えること。

第 1 学年では、図形に対して、「さんかく」「しかく」などと日常の言葉を用いて捉えてきた。

本単元では、3 本の直線で囲まれている図形が「三角形」、4 本の直線で囲まれている図形が「四角形」であることを学習する。図形を構成する要素である「辺」に着目し、その数によって三角形と四角形を定義し、いろいろな図形を三角形や四角形に分類したり、弁別したりする。また、図形の構成要素である直線（「辺」）の交わっている点である「頂点」について学習し、これに着目して三角形や四角形で辺の数と頂点の数は同じであることを捉える。

また、身近にあるかどの形は、平角を 2 等分したかどの形と同じであることを知り、それを「直角」と定義する。「直角」や辺の長さという図形の構成要素に着目して四角形の特徴を見直すことで、さらに詳しく分類する。4 つのかどが直角である四角形を「長方形」、4 つのかどが直角で 4 つの辺の長さが同じ四角形を「正方形」と定義する。そして、長方形や正方形の性質を調べ、長方形や正方形に分類したり、弁別したりする。弁別する際は、紙を折って作った直角のかどや三角定規の直角を当てて、4 つのかどが直角であることから長方形と判断したり、4 つのかどが直角で 4 つの辺の長さが等しいことから正方形と判断したりするなど、演繹的に判断できるようにすることが大切である。

その後、長方形や正方形を対角線 2 つに切って三角形を作る操作活動を通して、直角のかどがある三角形を「直角三角形」と定義する。

さらに、図形に関する用語や概念について、不定形の紙を折って直角や長方形を作ったり、長方形の紙を折って切ることで正方形を作ったり、長方形や正方形の紙を対角線で 2 つに折って切ることで直角三角形を作ったりする操作活動を通して、実感を伴って理解できるようにすることが重要である。

このような操作活動を通して、図形の構成要素に着目して図形を捉えるとともに、いろいろな図形を相互に関連付けて捉えるようにする。また、身の回りから、直角のあるものを見付ける活動や長方形や正方形を探す活動に取り組むこともできるようにすることで、図形に対する感覚を養うようにする。

(2) 児童観

1 学期末の算数の振り返り学習において、児童が自分で取り組みたい学習課題を選択できる場面を取り入れ、自由に進められるようにした。その際、多くの児童が意欲的に学習課題を選択し、必要に応じて積極的に教師に質問する姿も見られた一方で、手を止めて教師から声をかけられるのを待っていたり、諦めて投げ出してしまうたりする児童の姿も見られた。そこで、全ての児童が興味をもち、取り組み続けられるような工夫を手だてとして用意していく必要があると考えた。

5 本単元の学習の関連と発展

国語科「書いたら、見直そう」

【1年生】

まちがいをなおそう

・「は」「を」「へ」の表記に注意して、文章を推敲する。

【2年生】

日記を書こう

・出来事や思ったことなどを思い出して日記に書く。

かんさつ名人になろう

・丁寧に観察し、詳しく記録する文章を書く。

こんなもの、見つけたよ

・組み立て（はじめ、中、おわり）を考えて書く。

書いたら、見直そう

・書いた文章の見直し方を考える。

おもちゃの作り方をせつめいしよう

・順序が分かるように説明する文章を書く。

お話のさくしゃになろう

・組み立てを考えて、お話を書く。

見たこと、かんじたこと

・詩を書いて読み合い、よいところを見付ける。

すてきなところをつたえよう

・思いが伝わるように手紙を書く。

【3年生】

書くことを考える時は

・図を使って何を書くかを考える。

「かん字のひろば」

かん字のひろば 1

句点に気を付けて、前学年で学習した漢字を使った分を書く。

かん字のひろば 2

前学年で学習した漢字を使って日記を書く。

かん字のひろば 3

助詞に気を付けて、前学年で学習した漢字を使った文を書く。

かん字のひろば 4

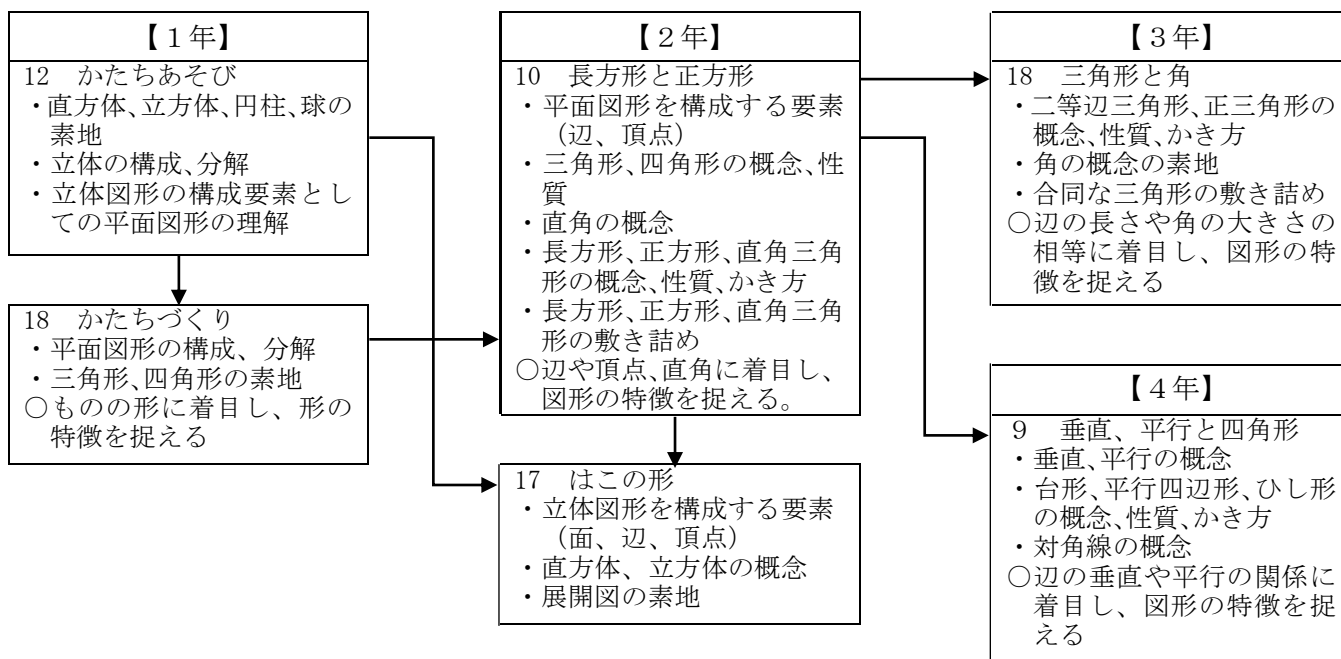
前学年で学習した数を表す漢字を使って、算数の問題を作る。

かん字のひろば 5

主語と述語に気を付けて、前学年で学習した漢字を使った文を書く。

算数科

「さんかくやしかくの形をしらべよう」



6 目指す児童像に迫るための手だて

低学年分科会 目指す児童像

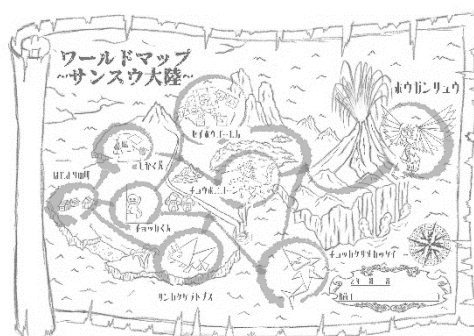
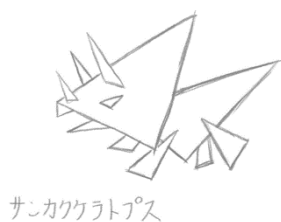
自分のやりたいことを選び、最後までやりきることのできる児童

(1) 環境・教材の工夫

ア 児童の興味を持続させるための工夫

児童はモンスターなどを集めるコンピューターゲームなどに日ごろから興味をもち、休み時間にもよく話題にしている。このような実態を基に、児童が学習課題を解決していくことに興味をもち、モチベーションを持続することができるようにするため、「モンスターを仲間にしていく冒険ストーリー」を軸に、学習が展開されるよう工夫した。楽しみながら個々のペースに合わせて学習課題を選択しながら解決していけるようにするために、以下のものを作成し、環境を整えた。

- ・モンスター各種・・・学習内容に関係した名前や見た目のキャラクター。
- ・ワールドマップ・・・単元の学習課題とモンスターが見渡せ、学習の順序(ゴールまでの道のり)を考えることができる地図。
- ・ゲットプリント・・・基本となる学習課題を解決するための学習シート。課題解決することで、モンスターを仲間にするができる。
- ・モンスター図かん・・・ゲットプリントの課題を解決すると入手できるまとめ用の学習シート。このシートを入手することで、モンスターを仲間にしたと見なすだけでなく、まとめの内容が別課題の解決にも活用できる。
- ・レベルアッププリント・・・学習課題について習熟度を上げるための学習シート。課題解決することで、既に仲間になっているモンスターのレベルを上げることができる。



イ デジタルコンテンツの活用

国語・算数の2教科で単元内自由進度学習（以下、マイプラン・タイム）を進めるため、タブレット（オクリンク）を使ってマイプラン・シートをデジタル化し、選択式のマイプラン・タイムを作成した。毎時間の目標として、どのモンスターを仲間にするかを明示できるようにしている。

課題の答えをタブレット端末で閲覧できるようにすることで、配布プリントの数を減らし、児童が自分のペースで答え合わせをできるようにした。また、タブレット活用が適していると考えられる一部の習熟度別課題については、二次元コードを使って課題に取り組めるようにした。

（2）学習過程の工夫

ア 指導の個別化（マイプラン・タイム）

国語・算数の2教科で複数のコースを作った。2教科にすることで、児童の学びの選択肢を増やし、他の児童のペースを気にせず、より自分の学習を意識させることができると考えた。

イ 学習の個性化（「モンスターを仲間にしていく冒険ストーリー」を軸とした授業の流れ）

児童は初めに、「ワールドマップ」を基にして、学習課題に取り組む順序を自分で選択し、マイプラン・タイムを作成する。

次に、学習内容をモンスターに見立てた学習課題「ゲットプリント」を選択し、課題解決に取り組む。その学習課題を達成することで「モンスター図鑑」を入手し、モンスターを仲間にできるようになっている。

その後は、同じ学習課題で習熟を深めていくための「レベルアッププリント」に取り組み、モンスターのレベルを上げたり、他の学習課題を「ゲットプリント」で取り組み、仲間のモンスターを増やしたりすることを自分で選択しながら学習をすすめる。また、複数のモンスターを仲間にしないと挑戦することができないゲットプリントにも取り組む。

教科ごとに最終課題に挑戦する際には、「モンスター図かん」を、国語の場合は文章の見直しのチェック項目として活用したり、算数の場合は作図をする際に図形の性質を振り返るために活用したりして取り組むこともできる。

児童は複数のモンスターを仲間にしたり、個別にモンスターのレベルを上げたりすることを楽しみながら学習課題を解決することで、学びに向かう力や意欲の伸長につながると考えた。

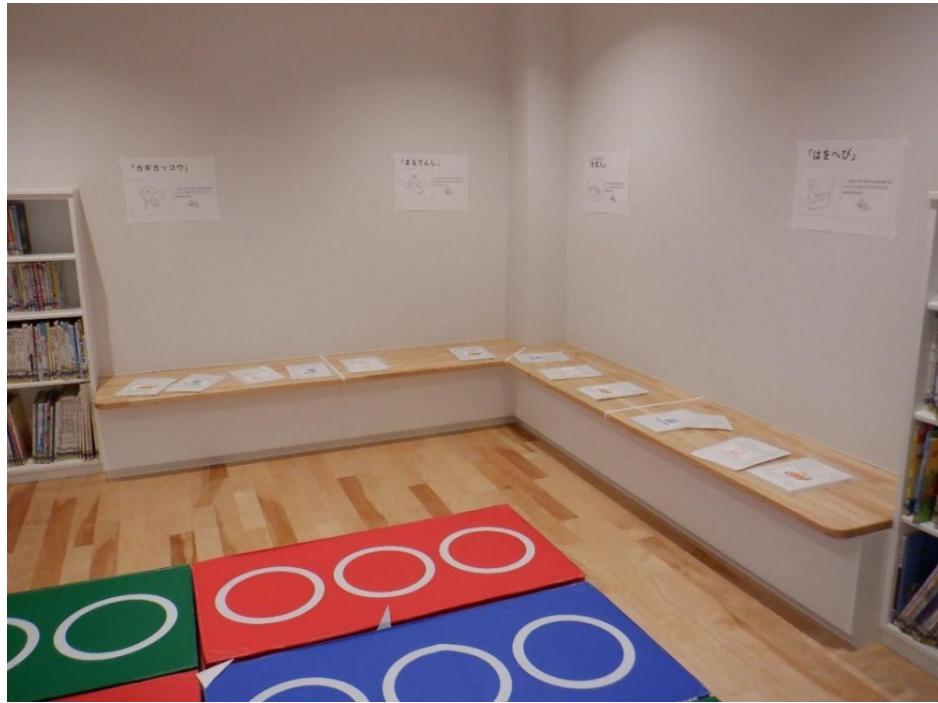
7 授業観察の視点

- 「モンスターを仲間にしていく冒険ストーリー」は児童の興味を持続させるために有効であったか。
- マイプラン・シートのデジタル化は、児童が学習計画を立てやすくするために有効であったか。

時		1	2～3		4								
形態		一斉	個別		個別								
目標		「書いたら、見直そう」 ・文章を読んで、特殊音節の表記や、助詞の「は」「へ」「を」、句読点、かぎなどを正しく使えているかを確かめ、間違いに気付くことができる。 「かん字のひろば」 ・1年生の漢字の読み方を確かめることができる。	「書いたら、見直そう」 ・特殊音節の表記や、助詞の「は」「へ」「を」、句読点、かぎなど見直す項目を確認することができる。 ・見直す項目を基に、練習問題に取り組むことができる。 「かん字のひろば」 ・漢字を使った文章を作ることができる。		「書いたら、見直そう」 ・学習したことを確かめ、自分が書いた文章に生かすことができる。 「かん字のひろば」 ・書いた日記を読み、似たところや違うところを見付けることができる。								
学習の流れ		1 普段見直しをしているのは、どんな時か想起する。 2 はやしさんが書いた文章を見直して、文章を書いたときも見直しをする必要性に気付く。 3 かん字のひろばを見て、漢字の読み方をワークシートに書く。 4 今後の学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	1 挨拶 2 自分の計画を確認する。 3 マイプラン・タイム <table><tr><td>1</td><td>○見直した文の中から、見直しポイントを見つけよう！ ○見直しポイントを使って、練習問題に取り組もう！ ○自分で文章を作って実際に見直そう！</td><td>p. 120 121</td><td>①</td></tr><tr><td>2</td><td>○教科書にある漢字を使った文章を書こう！</td><td>p. 122</td><td>②</td></tr></table> 4 今日の学習を振り返り、マイプラン・シートに記入する。 5 挨拶		1	○見直した文の中から、見直しポイントを見つけよう！ ○見直しポイントを使って、練習問題に取り組もう！ ○自分で文章を作って実際に見直そう！	p. 120 121	①	2	○教科書にある漢字を使った文章を書こう！	p. 122	②	・自分たちが書いた日記を読み、見直しをする。 ・見直す時には、どんなことに気を付けたらよいか、まとめる。 ・単元の振り返りを行う。
	1	○見直した文の中から、見直しポイントを見つけよう！ ○見直しポイントを使って、練習問題に取り組もう！ ○自分で文章を作って実際に見直そう！	p. 120 121	①									
2	○教科書にある漢字を使った文章を書こう！	p. 122	②										
評価規準（評価の方法）	ア		「書いたら、見直そう」 ・文章を声に出して読み、促音や助詞、句読点、かぎの適切な表記に気付いている。 「かん字のひろば」 ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（学習シート）		「書いたら、見直そう」 ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（学習シート）								
	イ		「書いたら、見直そう」 ・「書くこと」において文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（学習シート）										
	ウ	・学習の見通しをもって「書いたら、見直そう」と「かん字のひろば」の計画を立てようとしている。（マイプラン・シート）	「書いたら、見直そう」 ・進んで文章を読み返し、学習課題に沿って間違いなどを正そうとしている。（観察、学習シート） ・進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習を生かして日記を書こうとしている。（学習シート） ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意しようとしている。（学習シート）		「共通」 ・進んで課題に取り組もうとしている。（観察、学習シート）								

時		1	2～8(本時)				9		
形態		一斉	個別				一斉		
目標		・冒険ストーリーを通じて、基本的な図形である三角形、四角形、円の名前と特性を復習し、それらが日常生活の中でどのように使われているかを理解する。	・方眼紙を使って正確に図形を描く技術を習得し、形の対称性や比例を保つことの重要性を学び、作図した形を用いて作品を作成し、形が全体のバランスに与える影響を理解する。 ・これまで学んだ図形の特性を復習し、応用問題を通じて日常生活における図形の役割を再確認する。				・学習内容を総合的に振り返り、自己評価を通じて理解を深める。		
学習の流れ		・形モンスターの冒険ストーリーを通して、三角形、四角形、円といった基本的な図形に親しむ。 ・各図形の名前と簡単な特性を再確認し、これらの図形がどのように日常生活に関連しているかを理解する。 ・三角形の「3つの辺と角」、四角形の「4つの辺と角」、円の「曲線」の特性に注意を向ける。	1 挨拶 2 自分の計画を確認する 3 マイプラン・タイム				・学習内容を総合的に振り返り、自分の理解を確認する。 ・自己評価を通じて、これまでの学びを整理し、他の児童の意見を聞いて新たな視点を得る。 ・チームで成果を発表し、他者と意見交換を行うことで、学びを次のステップにつなげる。		
			1	○図形の分類を通じて、三角形や四角形の頂点の数に気を付けながら、それらを正しく分類しよう。	①	チェックテスト		○これまで学んだ図形の特性や分類、日常生活での活用についての理解を確認し、それを正しく説明できるか確認しよう。	
			2	○図形の特徴を使った簡単なパズルやブロック組み立てに取り組み、形の特徴を理解しよう。	②	7		○方眼用紙を使って、正確に図形を描く練習を行い、形の対称性や比例に気を付けよう。	⑦
			3	○直角について学び、身近な物の中から直角を見つける活動をしよう。	③	8		○これまで学んだ図形の特性を復習し、それを応用として問題を解こう。 ○図形の特性がどのように日常生活で役立っているかを振り返り、応用問題を通じて理解を深めよう。	⑧
			4	○長方形を使って、教室内や自宅の中で使われる形を探し、それらの特性を学ぼう。	④				
			5	○正方形と長方形の違いを理解し、それぞれの形が持つ特性について考えよう。	⑤				
			6	○直角三角形を使った簡単な応用問題に挑戦し、その特性を理解しよう。	⑥				
4 今日の学習を振り返り、マイプラン・シートに記入する 5 挨拶									
評価規準(評価の方法)	ア	・基本的な図形(例：三角形、四角形、円)の名前や特徴について正しく理解している。(観察・学習シート)	・三角形や四角形、直角、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解するとともに、紙を折って直角を作ったり、長方形や正方形などを作図したりすることができる。(観察・学習シート)						
	イ	・図形の名前や特徴について説明できる。(観察・学習シート)	・辺や頂点など図形を構成する要素に着目し、三角形や四角形、長方形や正方形などの特徴を見だし、説明している。(観察・学習シート)				・学習内容を総合的に振り返り、自己評価を通じて自分の学びを整理できる。(自己評価シート)		
	ウ	・基本的な図形の特性に関心をもっている。(観察・学習シート)	・進んで学習シートを選び、学習課題に取り組む過程で、身の回りにあるものの形を図形として捉え、数学的に表現・処理したことを振り返り、数学的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。(観察・学習シート)				・チームでの発表を通じて他者と意見交換を行い、新たな視点を得ようとしている。(観察)		

国語科「書いたら、見直そう」「かん字のひろば」（４時間） 学習環境の様子



算数科「さんかくやしかくの形をしらべよう」（９時間） 学習環境の様子

